

# 和歌山市立広瀬小学校

## 平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

〈調査内容〉 実施日：平成 28 年 4 月 19 日(火) 実施対象：6 年生 29 名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を 5 年生までに含まれる指導事項を原則とし、国語・算数の 2 教科について、「知識」と「活用」の 2 種類の問題が出題されます。国語 A・算数 Aでは、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて、国語 B・算数 Bでは、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されます。

### 〈教科調査の結果〉

#### 〈国語科の傾向〉

- ① 漢字の読み書きは、全国平均を上回る結果となり、おおむね定着しているととらえています。しかし、ローマ字の読み書きについては、定着しているとは言えず、今後様々な機会をとらえて定着の取組をする必要があります。
- ② 選択肢を選ぶ問題では、細かな表現の違いに気づかず、誤答を選択している児童が目立ちました。内容を注意深く吟味し、よりよいものを求める態度を養うことが必要であるととらえています。
- ③ 複数の情報を関連付けて読み取り、条件に沿って書くことに課題が見られました。分量のある問題文を丁寧に読む力や、いくつかある資料からより適切なものを選択する力、自分の考えを条件に沿って書く力を育てることが必要であるととらえています。一定の分量の文章を読むことに慣れる・自分の考えを文章で表わすことを地道に積み上げていく必要があります。

#### 〈算数科の傾向〉

- ① 数と計算領域、特に算数 A はおおむね良好であるといえます。
- ② 単位量当たりの考え方やもともとなる量の理解が難しい傾向にありました。式と答で解答が完成するのではなく、どのようにすれば解決できるのかを言葉や絵・図で考え、自分なりに取り組むが学習の機会をより多く設定する必要があります。
- ③ 問われている場面のイメージができていないための誤りが目立ちました。例えば「ハードルを 4 つ置くとその間は 3 つである」ということに考えが至らないような誤りです。図や式を用いて答えを見つけるだけでなく、考えを吟味しながら適切な判断をする学習を充実させる必要があります。また、根拠を明らかにして自分の考えを表現する場面もより大切に扱う必要があります。

### 〈質問紙調査の結果分析より〉

児童質問紙調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

○決まった時間に起床・就寝する、毎日朝ごはんを食べる等の**基本的な生活習慣**については、概ね良好な状況にありました。また、家庭での TV 視聴やゲーム等にかかる時間もほとんどの児童が 1 日に 2 時間未満と答えています。家庭での時間の過ごし方について、各ご家庭で望ましい状況が続けていただいている状況がわかります。

○『あてはまる・どちらかというにあてはまる』の回答が特に多く見られた項目

## 様式 1

「学校に行くのは楽しいと思いますか。100%」「家で学校の宿題をしていますか。100%」

「学級みんなで協力して何かをやり遂げてうれしかったことがありますか。100%」

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。100%」

「自分には良いところがあると思いますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」

「学校の決まりを守っていますか。」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。」

多くの児童が学校生活に肯定的な回答を行っており、自己肯定感を持って友達と接していることがうかがわれます。

### ○改善の余地があると思われる項目

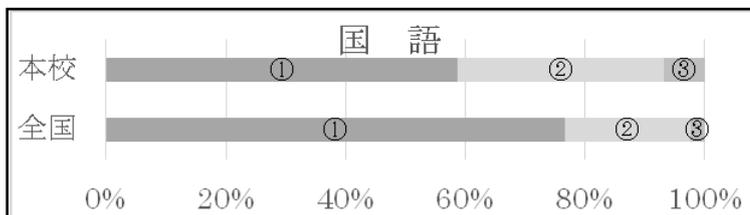
「地域社会などでボランティア活動をしたことがありますか。」

ある 20.7% ない 51.7% わからない 24.1%

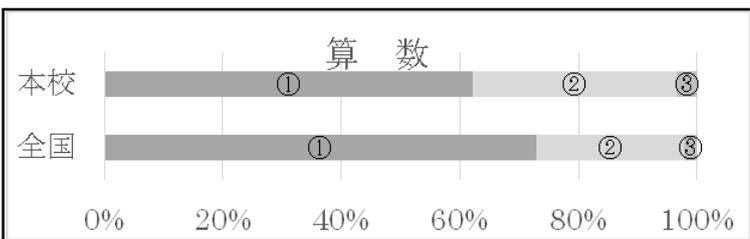
ボランティア活動等に取り組む機会を設定するとともに、児童の意識変容が必要です。

「解答で文章を書く問題がありました。どのように解答しましたか。」(国語)

「言葉や数、式を使ってわけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか。」(算数) **下グラフ参照**



- ① 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- ② 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった
- ③ 書く問題は全く解答しなかった



国語(算数)の勉強は好き・国語(算数)の勉強は大切だと回答した児童がほとんどであり、国・県平均を上回っています。しかし、粘り強さ(①の態度を育てること)はさらに必要であると思われます。

### <調査結果を受けて本校が具体的に取組んでいくこと>

- 補充学習の機会を充実させ、基礎的基本的な内容の定着に引き続き丁寧に取り組めます。
- 読解力、つまり、文章の内容を的確に読み取り理解する力を付けることに全学年で取り組めます。じっくりと読ませて読み取った情報を共有したり、多読により語彙を増やしたりするなど言語感覚を養う取組の充実を図ります。また、楽しい読書活動の充実のために、読み比べやシリーズ読み等の機会を設けたいと考えています。
- 読み取ったことをもとに、条件に沿って表現する力を高めていく必要があります。確かな根拠を挙げて説明し、筋道を立てて自分の考えを話したり書いたりする学習の機会を設けていきます。
- 子どもたち一人一人が考えを持ち、その自分の考え方を深める取組が必要です。持っている知識を活用して考えることや実感を伴った数量の理解については、課題があると考えています。自分の考えをノートにじっくりと書かせたり、友達と考えを出し合わせたりしながら、課題を解決する過程を大切に授業づくりに取り組めます。また、授業のはじめに目標を示したり、最後に学習の振り返りを行ったりすることは、教員の共通理解のもとに以前から実施しているところですが、この取組を継続することが重要であると考えています。今後も、様々な手法で、子どもたちが学習の流れをつかみ、確かに学ぶことのできる、よりよい授業を目指して取り組めます。